

守りの施策【村を支える基盤】

攻めの施策を支える土台として、日々の暮らしを守る「村を支える基盤」を維持していくことは欠かせません。

そのために、未病を含む統合健康管理や、災害時に孤立しないための防災体制を構築し、老朽化するインフラの計画的な更新を進めるとともに、将来にわたって村を支えるために、健全な財政運営と効率的な行政組織運営を行います。

➤ 施策内容

1、健康・福祉

- (1) 医療・介護
- (2) 共生社会

2、地域基盤

- (1) 防災・消防
- (2) インフラ・交通
- (3) 地域コミュニティ

3、持続可能な行財政運営

- (1) 財政運営・財産管理
- (2) 行政組織運営

➤ 施策を進めていく上でのポイント

- 人口減少を踏まえた賢く縮む（スマートシュリンク）という考え方
- 若い世代・未病からのアプローチなど予防中心の医療・介護
- 安定的な行財政運営

➤ K P I（目標とする指標）

『医療・介護・インフラ・交通・防災など生活基盤に不安がないと感じる村民の割合』

守りの施策は、村を支える基盤としており、それに対して村民がどう感じているかを目標として設定します。なお、アンケートにおいて感じないと回答された方は、その理由も把握するなど、個別の施策の状況に対する村民の捉え方も把握していくことを想定しています。

1、健康・福祉

(1)医療・介護

【次の5年のコンセプト】

未病を含む統合健康管理、高齢期の生活支援

➤ 施策の方向性

①未病からのサポート

健康診断の受診勧奨・データ活用など未病から治療まで、子どもや働き世代へのサポート、よりみちやあわくら大学、地区サロン、囲碁ボールなど個々の体の状況に合わせた社会参加、病気や介護を予防するための取組に引き続き注力していきます。

また、介護が必要となったり、見守りが必要な方に向けても関係者・専門職が連携して支援を行っていきます。

②高齢期の生活を支える支援

村内においては介護サービスを提供する事業者が限られるため、介護が必要となった場合の選択肢が少なからざるを得ない状況にあります。

そのため、在宅生活や看取りなど、社会参加や介護サービスの選択肢を少しずつ増やしていけるように検討を進めていきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：一人当たり国保医療費

設定理由など：未病からのサポートを行っていく上での一つの目的が医療費の適正化となるため目標として設定します。一人当たり国保医療費は全国的に見ると毎年増加しているため、前期計画期間の令和3～7年度を下回るように取組を進めていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
36,713	基準値以下を目指す				

資料：役場にて算出、単位：円、基準値：令和3～7年度平均

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・診療所や歯科がある・高齢者、障がい者の方のケアがいきとどいていく・検診が受けやすい	<ul style="list-style-type: none">・専門医がおらず、診療科や曜日が限られる・救急医療が弱く、大きな病院まで遠い・訪問診療の体制が弱い

(2)共生社会

【次の5年のコンセプト】

活躍・交流の場をつくっていく

➤ 施策の方向性

①社会参加・活躍の場の提供

地域活動やミニシルバーなど普段の活動から仕事など社会参加の機会を提供する支援を行っています。これからも、障害のある方や高齢者の方も、活動に参加したり、できる範囲で仕事をしたりするなど、それぞれが活躍できる場を増やしていきます。

②重層的支援の提供

生活をしていく上で支援が必要な方についても、家族・地域・役場・社協・事業所など関係機関が連携して、さまざまなニーズに対応できる重層的な支援を提供していきます。

③多文化を受け入れる村

村には事業を営む外国人の方がおられ、海外から来られる方も多いことに加えて、中学校の海外研修など海外とのつながりは深くなっています。外から来られた方をウェルカムに受け入れることができる村の特徴を活かして、これからも多文化交流を進めていきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：高齢者の社会参加率（週1回以上仕事や地域活動に参加している割合）

設定理由など：様々な場所・機会を作っていく取組の進捗の目安となり、3年に1度必ず把握する指標のため目標として設定します。なお、将来的には50%上回るように取組を進めていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
37.2	40	-	-	43	-

資料：役場にて算出（介護保険計画ニーズ調査）、単位：%、基準値：令和5年度調査

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・高齢者、障がい者の方のケアがいきとどいている・役場の対応が丁寧	<ul style="list-style-type: none">・障がい者が利用できる施設を増やしてほしい・バリアフリー化が不十分な場所がある

2、地域基盤

(1)防災・消防

【次の5年のコンセプト】
発災前後の備えと適切な支援の受入れ

➤ 施策の方向性

①災害への備え

大規模災害が起こると、村全体が孤立する可能性も考慮し、発災後の急性期（～3日）は村内備蓄品で対応できる体制と、ハザードマップの見直しによる適切な避難を促すための準備を整えます。また、近年の自治体防災では適切に他自治体・民間の支援を受けることが重要となっており、連携協定など必要な支援を受けられる体制を確保します。

②消防団活動

消防活動に必要な装備・備品の配備や、定期的な設備点検・訓練により、火災発生時に適切な対応ができる体制を維持していきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：放水訓練における消防団各班における水出し成功率

設定理由など：団員数の維持が難しくなる中で、消防団において消火活動が当たり前に行える体制を維持していくために目標として設定します。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
90	100	100	100	100	100

資料：役場にて算出、単位：%（非常呼集において確認）、基準値：令和7年度実績

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が少ない、安心 ・消防団の集まりが良い ・地域で助け合う文化がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害想定区域（土砂・浸水）への不安 ・防災無線の内容が聞こえにくい ・消防団員の負担増や高齢化

(2)インフラ・交通

【次の5年のコンセプト】

老朽化への対応と移動支援のあり方検討

➤ 施策の方向性

①インフラの維持

道路や上下水道などのインフラは、全体的な老朽化が進んでいるため、緊急的な修繕を除いて、緊急度や優先度などの尺度を設けて計画的な更新を進めていくとともに、持続可能な運用のための必要負担のあり方を検討します。

併せて、橋梁の歩道への用途変更による維持管理コストの削減など、地域の意見も聞きながらインフラのあり方を検討していきます。

②村民の移動支援

タクシー補助や福祉バス運行などの交通施策を維持しつつ、子どもたちの遊び場への移動手段など高齢者に限らず、村民の移動手段の状況把握と移動支援のあり方を検討していきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：水道の管路更新率

設定理由など：計画的な更新を進めていかないと将来のコストが大幅に変わるインフラの代表として水道の管路更新を目標とします。なお、更新作業は優先度の高い区域から進めていく予定としています。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
0	0	2.8	5.6	8.3	10.9

資料：役場にて算出、数値：%（更新した管路／全体の管路延長）

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・ 高速道路・鉄道があり都市部へ行きやすい・ 除雪が早くて丁寧・ Amazon が翌日に届く	<ul style="list-style-type: none">・ コンビニ・スーパーがなく買い物が不便・ 車がないと生活できない（免許返納後）・ 公共交通（バス・タクシー）が弱い

(3)地域コミュニティ

【次の5年のコンセプト】

コミュニケーションの機会創出

➤ 施策の方向性

①職員と村民の関わり

村外出身者の増加、事務効率化による地域に赴く機会の減少など、職員と村民が関わる機会は減少していますが、小さな村だからこそ普段からのコミュニケーションを取る意義は大きいと、定期的な意見交換の場などの機会を設けていきます。

加えて、さまざまな世代の方とコミュニケーションが取れるようなアプローチも模索していきます。

また、区長会や様々な役の集まりなどで要望を受け取った際には、個々のやり取りとせず、公に回答することで適切な対応をしていきます。

②各地域の組織

村内では、地区によって規模も異なりますが、他の自治体と比べると小規模の地区が多いという特徴があります。

それぞれの地域の役については、地域のコミュニティや普段の生活のために必要な存在ではありつつも、人口減少につれてその負担は大きくなるため、内容・体制などについては必要に応じて見直しを行っていきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：職員と村民の意見交換の機会

設定理由：施策の方向性の記載のとおり、コミュニケーションの機会をつくることが重要と考えているため目標として設定します。計画策定時に実施した地区意見交換会のような形で、2年に1回は各地区で実施していきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
12	6	6	6	6	6

資料：役場にて算出、数値：回数、基準値：令和7年度実績

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・人がやさしい、あいさつをする・「あわくら会館」にみんなが集まる・困った時に助け合う	<ul style="list-style-type: none">・噂がすぐ広がる・閉鎖的、同調圧力が強い・近所付き合いや「役」の負担が重い

3、持続可能な行財政運営

(1)財政運営・財産管理

【次の5年のコンセプト】

中長期的にみた安定的な行財政運営

➤ 施策の方向性

①適正な財政運営

物価高などによる経常的な管理コストの上昇や基幹施設更新に伴う地方債の償還など厳しい財政状況にある中で、各事業における適正な執行や中期的な全体管理を行い健全な財政運営に努めていきます。

②財源確保

国県等の交付金・補助金を最大限に活用することはもとより、企業版ふるさと納税や連携協定など民間資金の活用を念頭に置き、能動的に財源確保を行っていきます。

③財産管理

基幹施設や村営住宅など村有財産は多岐にわたっていますが、老朽化による維持管理コスト増加に備えて、更新・除却・長寿命化など長期的な視点のもとに方針を検討していきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：実質公債費率

設定理由など：大型の事業も控える中で一定の増加は見込まれますが、適正な財政運営のための基準として設定します。なお、記載の数値以下とすることを目標として設定します。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
14.1	15.0	16.3	15.9	15.4	14.8

資料：役場にて算出、数値：%、基準値：令和7年度見込み

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> 行政窓口の経済意識が高い 必要な投資をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 豪華なトイレなど優先順位への疑問 箱物の維持費や将来の財政への不安 補助金の使い方への疑問

(2)行政組織運営

【次の5年のコンセプト】

職員のスキルアップ

➤ 施策の方向性

①事務の効率化

各事業の事務実施にあたっては、前例踏襲型ではなく、法令遵守のもと効率的な実施を職員一人ひとりが実践できるようにスキルアップを図っていきます。

また、AIなどの効率化につながるツールは、全庁において積極的に活用します。住民サービスのDXは、金銭的・時間的コストも勘案しつつ導入を進めていきます。

②人材確保

民間企業の賃金上昇や自治体間格差など、職員採用を取り巻く環境は厳しいものとなっており、村での働き方など他と差別化できるようなPRなどの工夫による職員採用や、地域活性化起業人・地域おこし協力隊などの制度を活用した人材確保を行っていきます。

③村民向けの情報発信

現状の情報発信ツールとしては、広報紙、ホームページ、告知放送、文字放送、公式LINE、SNSなどがあり、それぞれの媒体で正確に分かりやすく伝えるとともに情報を手に入れやすい環境づくりに努めていきます。

なお、デジタルから情報を得られない方もおられるため、多様な媒体での情報発信は当面の間継続していきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：自分の担当業務以外の研修に参加する職員の割合

設定理由：コンセプトにも記載のとおり、限られた職員数の中で行政運営や本計画を推進していくためには、一人ひとりが少しずつでもスキルアップを行うことが不可欠なため目標として設定します。なお、これまでは数値として把握をしていませんでしたが、全職員が自身のスキルアップに取り組めるようにサポートをしていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
—	100	100	100	100	100

資料：役場にて算出、数値：%

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・役場職員との距離が近く相談しやすい・職員の対応が親切、応対が良い・行政の仕事が早い	<ul style="list-style-type: none">・職員数が多すぎるのではないか・住民意見が反映されていない（トップダウン）・役場職員の顔がわからない（つながりが薄い）